



平成27年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年3月31日

上場取引所 東

上場会社名 日本プロセス株式会社

コード番号 9651 URL <http://www.ipd.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 上石 芳昭

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務統括

(氏名) 久保 裕

TEL 03-5408-3351

四半期報告書提出予定日 平成27年4月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年5月期第3四半期の連結業績(平成26年6月1日～平成27年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年5月期第3四半期	4,149	9.6	405	65.8	429	58.5	263	72.8
26年5月期第3四半期	3,785	3.5	244	28.5	271	24.3	152	33.2

(注) 包括利益 27年5月期第3四半期 289百万円 (81.3%) 26年5月期第3四半期 159百万円 (34.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年5月期第3四半期	51.81	—
26年5月期第3四半期	27.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年5月期第3四半期	8,901	7,768	87.3
26年5月期	9,161	8,214	89.7

(参考) 自己資本 27年5月期第3四半期 7,768百万円 26年5月期 8,214百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年5月期	—	15.00	—	15.00	30.00
27年5月期	—	15.00	—	—	—
27年5月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年5月期の連結業績予想(平成26年6月1日～平成27年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,531	4.8	425	13.2	469	10.2	302	25.2	59.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年5月期3Q	5,745,184 株	26年5月期	5,745,184 株
② 期末自己株式数	27年5月期3Q	822,634 株	26年5月期	200,134 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年5月期3Q	5,089,006 株	26年5月期3Q	5,545,083 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
4. 補足情報	9
(1) 生産、受注及び販売の状況	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費などに弱さが見られるものの、各種政策の効果もあり大企業製造業を中心に企業収益が改善しており、緩やかな回復基調が継続しました。

情報サービス産業におきましては、ソフトウェア投資は緩やかに増加しており、受注環境においても案件が増加し回復傾向が継続している一方で、人材のリソース確保は困難になってきております。

こうした環境の中、当社は、3カ年の中期経営計画（平成24年6月～平成27年5月）の最終年度として成果にこだわりながら、得意としている社会インフラ分野の中から新たな注力分野、新規顧客を発掘することや、前期より継続してソフトウェアの要件定義、開発から運用・保守までをトータルにサービスすることで顧客に最大のメリットを提供すること、などに注力してまいりました。

また、当社は、社会インフラ分野を成長ドライバーとして位置付けており、共同提案や共同開発などを通じて事業の効率化と収益力の向上を図るため、同分野に強いアドソル日進株式会社（東京都港区）と業務資本提携契約を締結し、競争優位性のあるビジネスの実現に向けて検討を進めています。

経営成績につきましては、一部で当初計画より検収が前倒しとなったことや受注が概ね順調だったことなどで、売上高は前年を上回りました。さらに、新入社員の現場へのアサインが早期にできたこと、全社的に技術者の稼働率が向上したことや瑕疵対応が減少したことなどで、利益は前年を大きく上回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,149百万円（前年同期比9.6%増）、営業利益は405百万円（前年同期比65.8%増）、経常利益は429百万円（前年同期比58.5%増）、四半期純利益は263百万円（前年同期比72.8%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

（制御システム）

制御システムでは、火力発電所向け監視・制御システムは、国内の電力業界全体として受注単価が下落傾向にあるものの、更新案件や新規案件などが堅調に推移しました。

自動車の制御システムは、次世代自動車向け電動化システムの開発などが堅調に推移しました。また、前期に新たな顧客から受託したエンジン制御のソフトウェア開発案件は概ね横ばいで推移しました。

さらに、制御システム全体で、作業量が増加し技術者の稼働率が向上したことや新入社員の現場へのアサインが早期にできたことなどで、利益は前年を大きく上回りました。

この結果、売上高は703百万円（前年同期比12.6%増）、セグメント利益は165百万円（前年同期比37.3%増）となりました。

（交通システム）

交通システムでは、在来線の運行管理システムはリプレース案件が堅調に推移しました。その一方で、新幹線の運行管理システムは、延伸についてのシステム開発が収束し、全体としても開発サイクルが一巡しているため体制が縮小したことなどで、交通システム全体としては、売上高は前年を下回りました。また、利益では、瑕疵対応が減少したことなどで前年より改善しました。

この結果、売上高は305百万円（前年同期比6.3%減）、セグメント利益は30百万円（前年同期7百万円の損失）となりました。

（特定情報システム）

特定情報システムでは、地理情報案件は、前期末より製造フェーズが継続し堅調に推移しましたが、一部で瑕疵対応が発生しました。また、危機管理関連は、複数の案件が輻輳し作業量が増加したことや技術者の稼働率が向上したことなどで、好調に推移しました。

この結果、売上高は530百万円（前年同期比47.2%増）、セグメント利益は134百万円（前年同期比44.8%増）となりました。

（組込システム）

組込システムでは、車載情報システムは、既存案件に加え新たな案件を受注するなど堅調に推移し、ストレージデバイスの組込システム開発と新サーバー開発も、堅調に推移しました。その一方、スマートフォンのプラットフォーム開発は、前期より大きく減少しました。前期に電子部品・半導体関連企業から新規に受託した開発案件は、順調に進捗し検収が完了しました。

この結果、売上高は954百万円（前年同期比15.2%増）、セグメント利益は229百万円（前年同期比9.0%増）となりました。

(産業・公共システム)

産業・公共システムでは、公共向けにおいては、次世代駅務機器開発やICカード開発が堅調に推移し、前期に受託した気象システムや衛星測位システムも堅調に推移しました。また、鉄道子会社向けのエンジニアリングサービスも堅調に推移しました。

産業向けにおいては、スポーツ関連システムの開発量が増加しました。

この結果、売上高は1,003百万円(前年同期比3.9%増)、セグメント利益は243百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

(ITサービス)

ITサービスでは、検証業務は、顧客の商品開発の減少やオフショア化により減少傾向にあるものの概ね横ばいで推移しました。構築業務は、一部顧客での業績の影響により体制が縮小しましたが、その他は横ばいで推移しました。保守・運用業務は、会計システムや企業内情報システムが堅調に推移しましたが、コールセンター業務が顧客内製化となったため、保守・運用業務全体としては減少しました。

この結果、売上高は652百万円(前年同期比4.1%減)、セグメント利益は114百万円(前年同期比8.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて260百万円減少して、8,901百万円となりました。この主な要因は、自己株式の取得に伴い現金及び預金が減少したことによります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて185百万円増加して、1,132百万円となりました。この主な要因は、債券購入に伴う未払金が増加したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて446百万円減少して、7,768百万円となりました。この主な要因は、自己株式の取得に伴い株主資本が減少したこと等によります。

この結果、自己資本比率は、87.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月期通期の業績予想につきましては、第3四半期連結累計期間の業績を踏まえ、平成26年7月7日に公表した業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,002,778	1,809,433
受取手形及び売掛金	1,482,005	1,387,983
電子記録債権	344,845	783,605
有価証券	1,202,316	904,653
仕掛品	121,791	250,803
繰延税金資産	198,685	164,351
その他	40,380	117,002
流動資産合計	6,392,804	5,417,832
固定資産		
有形固定資産	229,824	221,197
無形固定資産	17,698	15,641
投資その他の資産		
投資有価証券	2,169,203	2,876,209
その他	352,111	370,214
投資その他の資産合計	2,521,315	3,246,424
固定資産合計	2,768,838	3,483,263
資産合計	9,161,643	8,901,095
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,424	76,395
未払法人税等	52,640	58,537
賞与引当金	453,043	377,078
その他の引当金	26,049	30,682
その他	286,803	499,846
流動負債合計	877,962	1,042,539
固定負債		
引当金	63,447	69,818
その他	6,038	20,626
固定負債合計	69,486	90,445
負債合計	947,448	1,132,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,487,409	1,487,409
資本剰余金	2,325,847	2,325,847
利益剰余金	4,565,538	4,672,208
自己株式	△175,287	△754,212
株主資本合計	8,203,508	7,731,254
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,686	36,857
その他の包括利益累計額合計	10,686	36,857
純資産合計	8,214,195	7,768,111
負債純資産合計	9,161,643	8,901,095

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成27年2月28日)
売上高	3,785,074	4,149,675
売上原価	3,036,025	3,257,842
売上総利益	749,048	891,832
販売費及び一般管理費	504,585	486,483
営業利益	244,462	405,349
営業外収益		
受取利息	20,475	17,858
保険解約返戻金	4,120	2,930
その他	3,457	5,066
営業外収益合計	28,054	25,855
営業外費用		
その他	1,218	1,231
営業外費用合計	1,218	1,231
経常利益	271,298	429,972
特別損失		
固定資産除却損	2,504	48
特別損失合計	2,504	48
税金等調整前四半期純利益	268,794	429,923
法人税、住民税及び事業税	26,362	131,887
法人税等調整額	89,874	34,351
法人税等合計	116,236	166,239
少数株主損益調整前四半期純利益	152,557	263,684
四半期純利益	152,557	263,684

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成27年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	152,557	263,684
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	7,326	26,170
その他の包括利益合計	7,326	26,170
四半期包括利益	159,883	289,855
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	159,883	289,855
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

- (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項
(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年8月7日開催の取締役会決議に基づき、自己株式622,500株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が578,925千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が754,212千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自平成25年6月1日至平成26年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	交通システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	624,304	325,946	360,567	828,678	965,232	680,346	3,785,074
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	624,304	325,946	360,567	828,678	965,232	680,346	3,785,074
セグメント利益又は損失(△)	120,817	△7,077	92,961	210,176	233,660	124,601	775,141

(単位：千円)

	調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
売上高		
外部顧客への売上高	—	3,785,074
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	3,785,074
セグメント利益又は損失(△)	△530,678	244,462

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△530,678千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△504,585千円及びその他△26,092千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間(自平成26年6月1日至平成27年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	交通システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	703,099	305,276	530,901	954,968	1,003,131	652,298	4,149,675
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	703,099	305,276	530,901	954,968	1,003,131	652,298	4,149,675
セグメント利益	165,848	30,797	134,577	229,185	243,437	114,233	918,079

(単位：千円)

	調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
売上高		
外部顧客への売上高	—	4,149,675
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	4,149,675
セグメント利益	△512,729	405,349

(注) 1. セグメント利益の調整額△512,729千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△486,483千円及びその他△26,246千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
制御システム	537,250	+6.7
交通システム	274,479	△17.6
特定情報システム	396,324	+48.1
組込システム	725,782	+17.3
産業・公共システム	759,693	+3.8
ITサービス	538,065	△3.2
合計	3,231,596	+7.4

(注) 1. 金額は製造原価によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
制御システム	814,553	+43.3	231,184	+139.3
交通システム	378,354	△12.3	164,862	+12.4
特定情報システム	523,743	+47.7	79,832	△19.9
組込システム	931,279	+16.5	130,725	+31.0
産業・公共システム	1,027,009	+12.3	243,703	+62.7
ITサービス	640,062	+0.5	68,345	△12.8
合計	4,315,003	+16.5	918,653	+36.9

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
制御システム	703,099	+12.6
交通システム	305,276	△6.3
特定情報システム	530,901	+47.2
組込システム	954,968	+15.2
産業・公共システム	1,003,131	+3.9
ITサービス	652,298	△4.1
合計	4,149,675	+9.6

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社日立製作所	868,243	22.9	1,079,605	26.0
株式会社東芝	525,758	13.9	547,915	13.2
日立オートモティブシステムズ株式会社	412,122	10.9	422,327	10.2

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。